

※ 堺市公共事業評価監視委員会の意見具申を受けて修正した箇所は赤字とした。

再々評価審議対象事業一覧表（1事業）

(1/1)

事業種別	事業名	事業内容及び事業コスト	市民のニーズ	採択年度	事業が長期間要している理由	事業効果の発現状況		自然環境等への影響と対策	途中段階の整備効果発現状況	市の評価	評価
				進捗率 (H31.3)		定量的評価	定性的評価		事業の置かれている状況 (現状での課題)	完成目標年度	
河川事業	大和川圏域総合流域防災事業 (狭間川)	河道改修 L=1.15 km (鋼矢板圧入 L=2.30 km、河床掘削 V=3,220 m ³ 、護岸被覆 A=3,060 m ²) 全体事業費 1,230百万円	近年、全国各地で豪雨災害が頻発しており、治水安全度の向上が求められている。	平成19年度	当該河川においては、橋梁や鉄塔などの河川占用物が多く、工事実施にあたっては、施設管理者との近接施工協議が必要なため。	治水安全度の向上により、流域における浸水被害の軽減	<p>○計画時の想定 B/C=7.3 総便益 B=約174.8億円 総費用 C=約23.9億円</p> <p>○再評価時点 B/C=22.2 総便益 B=約161.4億円 総費用 C=約7.2億円</p> <p>○現時点での状況 B/C=22.0 総便益 B=約205.6億円 総費用 C=約9.4億円</p>	<p>○影響 河川敷内にキョウチクトウが繁茂し、見通しが悪く、防犯上・景観上好ましくない状況にあった。</p> <p>○対策 繁茂したキョウチクトウを撤去し、見通しのよい安全な空間を形成。</p> <p>キョウチクトウの撤去後、隣接する公園の利用者が河川と公園の景観を楽しむことのできる空間の形成として、遊歩道整備を別事業によって行う方向で検討中である。</p>	当該河川の改修済区間において、護岸を溢水する浸水被害は発生していない。	事業継続	継続
				49% (河川全体:75%)							令和5年度

※ 堺市公共事業評価監視委員会の意見具申を受けて修正した箇所は赤字とした。

再々評価個票（その1）

事業名		大和川圏域総合流域防災事業（狭間川）		
事業箇所		堺市北区新金岡町地先～堺市北区大豆塚町地先		
再々評価理由		再評価実施後5年間が経過した時点で継続中の事業であるため。		
事業が長期間要している理由		当該河川においては、橋梁や鉄塔などの河川占用物が多く、工事実施にあたっては、施設管理者との近接施工協議が必要なため。		
事業概要	目的	狭間川は、時間雨量50ミリ程度の降雨による洪水を安全に流下させるとともに、時間雨量80ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐことを当面の治水目標とし、河川改修事業を実施し、治水安全度の向上を図る。		
	内容	河道改修 L=1.15 km（鋼矢板圧入 L=2.30 km、河床掘削 V=3,220 m ³ 、護岸被覆 A=3,060 m ² ）		
	事業費	全体事業費：1,230 百万円		
	維持管理費	約4百万円／年（治水経済調査要綱に基づく事業費の0.5％／年）		
	上位計画	大和川水系西除川ブロック河川整備計画		
	関連事業			
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	再評価時点	現時点での状況
		事業採択年度 平成19年度 事業着手年度 平成19年度 完成予定年度 令和9年度	事業採択年度 平成19年度 事業着手年度 平成19年度 完成予定年度 令和9年度	事業採択年度 平成19年度 事業着手年度 平成19年度 完成予定年度 令和5年度
	進捗状況 (平成30年度末)	工事 - % (河川全体： - %) 改修延長 1.15 km (河川全体：2.34km)	工事 17 % (河川全体：59 %) 改修済延長 0.19 km (河川全体：1.38km)	工事 49 % (河川全体：75 %) 改修済延長 0.56 km (河川全体：1.75km)
		途中段階の整備効果発現状況	当該河川の改修済区間において、護岸を溢水する浸水被害は発生していない。	
課題				

再々評価個票（その2）

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	<p>本事業は、一級河川狭間川における治水安全度の向上を目的とした河川改修事業である。</p> <p>狭間川は、大和川水系の二次支川として、流路延長2,340m、流域面積7.68km²の一級河川である。</p> <p>昭和57年に発生した豪雨災害を契機に、昭和60年に一級河川指定され、大阪府より委任を受けて、河道改修事業に着手した。</p> <p>下流部より、順次整備を進め、平成19年度からは、総合流域防災事業として、国の交付金事業を受け、事業を推進している。</p>		
	地域の状況	<p>・国勢調査（平成22～27年度）の変化</p> <p>人口：1.46%増加、世帯数：2.12%増加、事業所数：2.58%減少</p> <p>高齢者人口：16.11%増加</p>		
	市民のニーズ	<p>近年、全国各地で豪雨災害が頻発しており、治水安全度の向上が求められている。</p>		
事業効果の定量的評価	費用便益分析	計画時の想定	再評価時点	現時点での状況（変更点）
		<p>○B/C=7.3</p> <p>総便益 B=約174.8億円</p> <p>総費用 C=約23.9億円</p> <p>①評価基準年度：平成19年度</p> <p>②対象：平成19年度以降の全事業</p>	<p>○B/C=22.2</p> <p>総便益 B=約161.4億円</p> <p>総費用 C=約7.2億円</p> <p>①評価基準年度：平成26年度</p> <p>②対象：平成26年度以降の改修事業（大和川水系西除川ブロック河川整備計画と同様の手法）</p>	<p>○B/C=22.0</p> <p>総便益 B=約205.6億円</p> <p>総費用 C=約9.4億円</p> <p>①評価基準年度：令和元年度</p> <p>②対象：平成26年度以降の改修事業（大和川水系西除川ブロック河川整備計画と同様の手法）</p>
	※整備手法及び浸水想定区域の設定方法が異なる。		※「B、C」については、同じ解析結果を用いて計算を行っているが、評価基準年度の違いなどによって、異なる計算結果となっている。	
その他指標				
事業効果の定性的評価	<p>治水安全度の向上により、流域における浸水被害の軽減</p>			
自然環境等への影響と対策	<p>○影響</p> <p>河川敷内にキョウチクトウが繁茂し、見通しが悪く、防犯上・景観上好ましくない状況にあった。</p> <p>○対策</p> <p>繁茂したキョウチクトウを撤去し、見通しのよい安全な空間を形成。</p> <p>キョウチクトウの撤去後、隣接する公園の利用者が河川と公園の景観を楽しむことのできる空間の形成として、遊歩道整備を別事業によって行う方向で検討中である。</p>			
その他特記すべき事項	<p>国の「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」によって財源を確保することで、事業前倒しを行い、事業期間を4年間短縮した。</p>			
前回再評価時の意見具申・市の対応方針の概要	<p>「大和川水系西除川ブロック河川整備計画（変更）」の審議（大阪府河川整備審議会（平成26年））を経て、本審議会の承認をもって事業再評価とした。</p>			

※ 堺市公共事業評価監視委員会の意見具申を受けて修正した箇所は赤字とした。

再評価個票（その1）

事業名		都市計画道路 南花田鳳西町線（金岡・白鷺地区）	
事業箇所		堺市北区金岡町～堺市中区新家町	
再評価理由		事業着手後5年間を経過した時点で継続中の事業	
事業が長期間要している理由		—	
事業概要	目的	本路線は府道大阪高石線（新）とともに、本市の道路ネットワークにおける環状軸を形成する重要な幹線道路の一つであり、周辺道路の交通混雑の緩和、災害時の広域避難施設への避難路の形成及び火災発生時の延焼遮断効果等の防災性向上を図ることを目的として整備するものである。	
	内容	延長L=1.85km、幅員22～45m 道路区分：第4種第1級、車線数：4車線	
	事業費	全体事業費 約174億円 (内訳) 用地補償費 約70億円 工事費 約104億円	執行事業費 約1.8億円 用地補償費 約1.4億円 工事費 約0.4億円
	維持管理費	約3.6百万円/年	
	上位計画	堺市マスタープラン「さかい未来・夢コンパス」（平成23年3月） 堺市都市計画マスタープラン（平成10年10月策定、平成24年12月改正）	
	関連事業		
事業の進捗状況	経過	計画時の想定	現時点での状況
		事業着手年度 平成26年度 完成予定年度 令和8年度	事業着手年度 平成26年度 完成予定年度 令和8年度
	進捗状況 (令和元年11月)	—	用地 21%（面積ベース） 全体事業費 1%（執行額ベース）
	途中段階の整備効果発現状況	用地取得・建築物の撤去が完了した箇所から、延焼遮断効果が発揮されている。	
課題	特に無し		

再評価個票（その2）

事業を巡る社会情勢の変化	事業目的に関する諸状況	<p>本路線沿線及び周辺には広域避難地が複数あり、近年多発する台風、地震等の災害時の避難路や緊急物資の輸送路形成の観点からも本路線の整備の必要性が高まっている。</p> <p>また、最近の交通事故等により、通学路の安全対策が求められている。</p>	
	地域の状況	<p>依然として地域においては、以下のような状況が継続している</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並行路線である府道大阪高石線が幹線道路として機能しているものの、交通渋滞が発生している。 ・当該区間では住宅地や団地内の生活道路に通過交通が混入し、歩行者や自転車の安全性に問題がある。 	
	市民のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における指定避難所等への避難路形成による防災性の向上 	
事業効果の定量的評価	費用便益分析	計画時の想定	現時点での状況（変更点）
		<p>【参考】</p> <p>○2区間に分けて算定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(市)金岡52号線～(府)堺富田林線 B/C=3.6 総便益 B=242億円 総費用 C=68億円 ・(府)堺富田林線～国道310号 B/C=4.7 総便益 B=312億円 総費用 C=66億円 <p>※評価時点 H27年度 ※費用便益算定の根拠 「費用便益分析マニュアル(H20.11)」 国土交通省 道路局 都市・地域整備局</p>	<p>○B/C=3.3（事業全体） 総便益 B=469億円 総費用 C=140億円</p> <p>○B/C=4.0（残事業） 総便益 B=469億円 総費用 C=119億円</p> <p>※評価時点 R1年度 ※費用便益算定の根拠 「費用便益分析マニュアル(H30.2)」 国土交通省 道路局 都市・地域整備局</p>
	その他指標		渋滞損失時間の削減:101.3万人時間/年
事業効果の定性的評価	<p>○交通の円滑化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平行する幹線道路に集中した交通を分散させることにより円滑な交通を確保 <p>○安全性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活道路への通過交通抑制による周辺通学路等の安全性向上 <p>○防災性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難路としての機能を有し、災害時の迅速な避難を支援 ・救援物資集積場所と広域避難地間を結ぶ代替路を形成 ・緊急交通路としての役割 ・延焼遮断効果として火災延焼を防ぎ、被害を軽減 		
自然環境等への影響と対策	○CO2 排出削減量：4,000t/年		
その他特記すべき事項	本事業は無電柱化路線として進めている。		